



発行：自由ヶ丘地区
コミュニティ運営協議会
住所：自由ヶ丘3-12-11
TEL：32-5594 FAX：35-3250
メール：jiyuugaoka-cc@oboe.ocn.ne.jp
http://www.jiyuugaoka-cc.com/

自由ヶ丘人口調査
【令和7年2月28日現在】
世帯数 6,375世帯
人口 14,480人
男性 6,872人
女性 7,608人

各自治会の防災計画の**押しポイント**です。計画ができたから安心！ではなく、毎年、この計画を実施・見直しをしながら、地域の防災について、住民みんなが関心を持ち、意識を持つことが大切なのです！地域の防災は、地域住民が意識をすることから！

令和6年度の 各自治会の地区防災計画会議が 終了しました！



北九州市立大学
村江 史年先生

住民主体で作成した地区防災計画がついに完成しました。よく陥りがちな「十把一絡」でみんな同じ内容といった計画ではなく、各々の地域の特徴をよく捉えた区会ごとの防災計画になっていると思います。今後は、この計画をより実効性が高いものにすべく、日頃から取り組んでいる地域のイベントと防災とをつなぎ合わせる、「ながら防災」の視点を大切に地域住民のみなさんと計画をブラッシュアップしていきましょう。



第1区会 ▶▶▶ 自助・共助・公助そして互助

互助とは互近助の関係性。災害時だけではなく、日常生活においても「互近助」活動を展開。まずはあいさつから始めよう。また、コロナ禍における活動自粛中の使わなかった経費で防災備品を購入。



第2区会 ▶▶▶ 危険箇所を丁寧に把握

身近な場所にどのような危険箇所があるかを把握した。そのうえで、世帯数が多い自治会でもあるので、まずは**平常時から連絡の取れる状況を構築**していくことから始める。

第3区会 ▶▶▶ 実際に起こりうる災害を細かく確認

区民挙げての**防災訓練では、子ども会とも連携し、一時避難所での本部の立ち上げなど実戦形式**で行った。「笑顔であいさつする向こう三軒両隣」が防災意識向上の第1歩！

南第1区会 ▶▶▶ 自治会の防災意識向上へ始めの1歩

この1年を通して、自治会役員などで改めて住んでいる地域を見直し、原案の作成により、今やっとスタートラインに立ったという思い。地域住民が支え合える防災の仕組みを考えていきたい。

南第2区会 ▶▶▶ 地域の状況を再確認

今年度は、地域の危険な場所を確認し、緊急連絡網の調査や情報伝達の訓練、また一時避難所の検討を行った。地域で防災に取り組むきっかけができたので、今後は**地域全体で防災意識を高め、具体的に取り組む仕組み**を作っていきたい。

南第3区会 ▶▶▶ 社宅の強みを生かす

人の入れ替わりも激しい社宅なので、継続的な計画が難しい反面、高台にあるという立地の有利性、また**比較的若い世代の地域なので、情報収集などにおいてスピード化が図りやすい**。

南第4区会 ▶▶▶ 地区のつながりを構築

自由ヶ丘南4区は若い自治会です。地区防災計画をきっかけに連絡網などのつながりや防災体制を構築していきます。



青葉台1区会 ▶▶▶

避難場所（学校）が近い有利性。住居地区内に小・中学校があるので、災害時避難しやすい。緊急連絡に関してはLINEを活用するなど迅速性重視。ただ、**自治会としての防災備品の整備が早急課題**。



青葉台2区会 ▶▶▶

話し合いやすい環境と取り組みやすい仕組み。まずは自治会役員間から始め、少しずつ関係性を広げていき、地域の繋がりを広げる。また、一斉清掃など人が集まる時を利用して訓練をするなど「ながら防災」で**取り組みやすい仕組み**を作る。



自由ヶ丘第2区会しらゆり会

カワセミ飛ぶ白水池を美しく

自由ヶ丘中央公園の白水池周辺は、春には桜、初夏は緑、秋は紅葉、冬の渡り鳥と四季折々の景色を楽しむことができます。自由ヶ丘地区の憩いの公園です。今はカワセミやジョウビタキ、カルガモなどの鳥たちと出会うことができます。鯉に餌やりをして楽しんでいる人もいます。春先には鯉の稚魚が群れをなして泳ぎます。

この公園を私たち「しらゆり会」（高齢者の会）のメンバーが、**毎月第二金曜日の早朝に清掃活動のボランティアを続けています**。遊歩道の掃き掃除、側溝に落ちた枯れ葉の掃除が主な活動です。落ち葉は自然な現象です。しかし、溝の中や公園の周辺にはお菓子などのビニールごみが放置されている時もあります。公園内のベンチ周辺には、ジュース缶やたばこの吸い殻などが目につきます。

公園内にはごみ箱はありません。各自ごみは自分で持ち帰りましょう。地域の大切な公園の環境を守りましょう。



自動運転バスに乗ってみた



高齢化が進む自由ヶ丘地区の今後の課題として「移動手段への不安」が挙げられる。その打開策の候補として、宗像市は「自動運転バス」の実証実験を始めた。今回はレベル2（運転手が同乗し、原則ハンドルは握らない状態）。今後、27年度には運転手不要のレベル4を目指している。

さて、早速試乗。車内にはモニターが付けられ、そこにはバスが走るルートが示され、同時に車周辺の様子も映し出される。運転手さんがハンドルを握らない姿は修行僧の様…。信号、標識も事前に取り込まれているので正確に認識。横断歩道に人が近づくと感知して止まる。賢い！路駐などには運転手が手動で介入する。時速は35㎞だが、電気自動車なので加速はスムーズで速く感じる。これからの自由ヶ丘地区の交通事情の改善に明るい兆しを感じた。今後発展していくことに必要なものは「慣れ」。乗る人も、周りの車を運転する人も、これから進化していく公共の移動ツールに慣れるしかない。でも、この慣れが不便を便利にきつと変えてくれる！

楽しかった。
人がハンドルをやってないのに、止まったり動いたりして、すごかった

面白かった。
人の指示が聞こえて、状況が分かるから安心できた



シリーズ企画

自由ヶ丘のソコが知りたい！ No. 7

春の交通安全クイズ

ピカピカの1年生が大きなランドセルを背負って小学校へ、また、初めての自転車通学で中学校へ。自由ヶ丘地区のあちこちで入学の春がやってきます。そこで、クイズです！

Q：この緑の線は何でしょう？



A：歩道が整備されていない通学路の路側帯を緑色に塗装して、自動車の注意喚起を促す安全対策です。



Q：自転車は車じゃないから交通ルールは守らなくてもよい？

A：NO！自転車は車の仲間です。交通ルールを守り、交通マナーを実践しましょう。

自転車での走行は、車道が原則・左側通行。歩道は例外・歩行者優先。



ここで一句



ランドセル背負う笑顔と安全道